

文部科学省選定「未来医療研究人材養成拠点形成事業」
『未来医療を担う治療学CHIBA人材養成』
『治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム』
~CHIBA INNOVATION PROGRAM FOR THERAPEUTICS~

NEWS LETTER

VOL.2
2016.12



CIPT
CHIBA INNOVATION PROGRAM FOR THERAPEUTICS
AT CHIBA UNIVERSITY


CHIBA
UNIVERSITY

治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラムとは？

千葉大学医学部の100年以上にわたる臨床医学推進の歴史。その伝統をもとに「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院までの一貫的教育システムを導入し、先見性と柔軟性、幅広い視点を有し、将来の医療イノベーションを担う人材の輩出を目的とする人材養成プログラムです。

医学部3年生全員がイノベーション医学教育を受け、4年～5年生の間にイノベーション基礎力をつけるためのゼミや実習に参加できます。医学部生と修士課程、博士課程の大学院生がともにゼミと実習に参加し、異なるバックグラウンドを持つ学生同士が切磋琢磨し合うことで知的融合の素地ができ、能力発展の基礎作りを目指します。さらに博士課程では、医学・薬学・工学部の先進的教員をはじめ、製薬企業や政府機関・海外の開発研究機関の客員教授も参画する特別演習・実習が行われます。

「未来医療研究人材養成拠点形成事業」中間評価公開

平成25年度に採択をされ、医療イノベーション推進人材の養成を目指して事業を進めてきた本プログラムの中間評価が平成28年6月29日に文部科学省ホームページにて公開され、本学は【A評価】をいただきました。

テーマA選定の全10大学において、A評価は4大学、B評価は6大学という結果でした。

第1回 合同公開フォーラム 開催

文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業—テーマA・B合同—「第1回 合同公開フォーラム～魅力ある拠点作りにむけての方略の共有～」を平成28年3月4日(金)に千葉大学にて開催しました。

徳久学長の開会の辞に始まり、基調講演、選定事業毎の成果口演発表、ランチョンセッション、特別講演、総合討論を行い、中山研究院長の閉会の辞をもって全プログラムを終えました。

テーマA・B合わせ総勢179名の方にご参加いただきました。

選定大学における成果発表や総合討論を受けて、課題や改善策さらには新たな取り組みなどを見つけることができた大変有意義な合同公開フォーラムとなりました。



学生独自の取組み「なのはなおでかけマップ」のポスター発表

本プログラムでは、立案から実施までを全て学生が担当する研修を行っています。

その中の1つである、なのはなおでかけくらぶが作成をしている「なのはなおでかけマップ」のポスター発表を平成28年9月26日(月)実施の金沢大学主催の公開フォーラムにおいて行いました。

「なのはなおでかけマップ」とは、障がい児施設などを訪問し、障がい児とその家族が抱える様々な問題を実際に感じ、その体験を元に、外出を楽しみと感じられ、積極的に外出する機会を増やして欲しいという学生の思いが込められた地図です。



PHOTO NEWS

～写真で見るCIPT～



「新入生ガイダンスの開催」

新たに選抜された、CIPT大学院三期生・医学部二期生へ向けたガイダンスが平成28年4月15日(金)に開催され、新入生、大学院一期生・二期生及び関係教職員が参加しました。開会の挨拶後、合格通知書の配付、自己紹介、CIPT教員紹介、コースワーク説明、在籍生による各種研修の発表が行われました。さらに、今後の活動についての打合せを在籍生と新入生で行うなど、プログラム参加の第一歩となりました。



「イノベーション治療学実習(海外研修) ～アメリカ サンディエゴ～」

平成28年8月30日(火)～同年9月4日(日)にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにおいて海外研修を実施し、11名が参加しました。「Tanabe Research Laboratories U.S.A., Inc.」「Kyowa Kirin Pharmaceutical Research, Inc.」「BioWa, Inc.」「Biolegend」「Abwiz Bio」の5社と研究所を訪問し新薬開発などのイノベーションの国際的現場を体験しました。

「学生独自の取組み

～第2回CIPT医工連携研修～」

平成28年2月22日(月)に千葉大学フロンティア医工学センターにおいて、プログラム所属学生が立案の研修を実施しました。イノベーション医学講義で学修した医工技術・機器等を実際に見学し、生命科学以外の視点から「治療学」を考える素晴らしい経験になりました。医学だけに偏らず、他分野まで視野を広げることで、新たな知見を得ることができました。



「イノベーション治療学実習(海外研修)～スイス ジュネーブ～」

平成28年9月26日(月)～同年10月1日(土)にスイス ジュネーブにおいて海外研修を実施し、2名が参加しました。「世界保健機関」「国際移住機関」「在ジュネーブ国際機関日本政府代表部」「国際赤十字赤新月社連盟」「国際連合ジュネーブ事務局」の5機関を訪問し、国際的に医療イノベーションを起こすことの難しさを学ぶと同時に、新たな目標の設定や自身のキャリアなどを再確認することができました。



STUDENTS VOICES [学生の声]

二期生(学部)

今井 紗綾
4年生



広い視野を持った医療者を目指して

将来、基礎研究を臨床に還元できるようにしたいという思いからCIPTに参加した。研究成果が先端治療に結びつく過程を学ぶ参加型授業や、医学・製薬分野の講師の方々の講義を受け、研究と臨床の双方の視点と異分野融合について考える事が出来た。また、海外研修ではアカデミア、企業がオープンイノベーションを意識した研究開発を行っている現場を肌で感じた。CIPTでの活動を生かし、臨床の問題点に広い視野を持ってアプローチ出来る医療者を目指していきたい。

二期生(学部)

青山 辰次
4年生



臨床と基礎をつなぐ医師を目指して

昨年度、医学部カリキュラムの一環としてトランスレーショナル先端治療学の講義で発表をさせて頂いた時に、目の前の治療だけではなく新薬や新しい治療法の開発の重要性を実感した。入学当初から臨床医になることを目標としていた自分にとって基礎研究は中々敷居が高いように感じていたが「架け橋研究」という新たな道をCIPTで学び、これからのキャリアの道筋としていきたいと思う。

二期生(学部)

古谷 るふ
4年生



夢に向けて

私は現在小児科医を目指しています。また、国際医療にも貢献するのが夢です。夢の実現のためにも、学生のうちから多くのことを経験したいと思っていました。幅広い視野で未来の医療を志すCIPT生との活動はとても刺激的でした。特に夏のSan Diego留学は米国のTranslational Researchを学ぶ良い機会になりました。また、有志によるディベート活動は障がい児支援ボランティア団体「なのはな」でおかけくらすを設立するきっかけになりました。学友との意見交換や異文化交流、新しいボランティア活動を通して今後も精進していきます。

二期生(学部)

川西 朗弥
4年生



多彩な視点からの医療イノベーション

より良い医療が求められる今後の世界において医療イノベーションを実現するためには、基礎、臨床、教育、行政などの多彩な要素が協力し合うことが必要不可欠です。今回私はこのプログラムに参加したことで、「医療の進歩=研究開発」という固定観念を払拭し、自分の将来について見つめ直すことが出来ました。これからは変化し続ける医学において必要なリーダー人材となるよう、今後も日々研鑽をしてみたいと思っています。

二期生(学部)

邵 東鈺
4年生



いつか世界で活躍できる医療者になり

私は自分の強みである語学を生かし日本だけでなく世界で活躍できる医療者になりたいと思い、選択肢を広げより良い方法を見つけたいと思い本プログラムに参加しました。様々な分野で活躍されている先生方のご講演では成功に至るまでの道筋や思考のプロセスを学ぶことができ、さらに内容について議論をする環境があることで一層理解を深められます。今後は学んだことを試行錯誤し、世界で活躍できる医療者になれるよう日々成長していきたいと思っています。

二期生(学部)

黒崎 宏貴
4年生



次世代の医学・医療の担い手として

医学部で学んでいると根本的な治療法のない疾患が多くあることを実感し、新規の治療法や治療薬の開発の必要性を強く感じます。私はCIPTでの講義や英語プレゼン・ディベート演習、サンディエゴにおける製薬企業の研究所での研修により、日本や世界での医療・創薬イノベーションの現状と展望を学ぶことができました。私は将来、この大きな学びを新規の治療法や治療薬の開発を通して多くの患者さんに還元できるよう、日々努力を重ねていきたいと思っています。

二期生(学部)

伊豆 永晃子
4年生



グローバルな人材を目指して

実際に大学院で研究に取り組む大学院生の方々と、英語でのプレゼンテーション講座や海外留学を通して、ともに「グローバルな人材」を目指して切磋琢磨できたことは、今の私の更なるモチベーションに繋がっています。現在、膵臓癌の術後合併症の予測因子に関する学会発表や論文執筆を主に活動しておりますが、今後もCIPTで培った広い視野を生かして、将来海外に進じる「グローバルな人材」になるべく、これからも精進を続けてゆく所存であります。

三期生(大学院)

鈴木 瑛美
修士課程1年



研究者を目指すために大切なこと

研究者にとって必要なことは豊かな発想だと考えており、様々な観点から物事を見る力を養うことが私にとって重要だと思っています。CIPTの授業では薬学、工学、医学の観点から医療の関わり方を学ぶことができます。医学部生とのディベート、製薬会社や食品会社の方々など外部から講師を招いての授業、工医学の研究を行っている研究室への見学など様々な経験ができ、とても刺激的です。この経験を生かし1つの考えにとらわれることなく常に新しい発想ができる研究者を目指し努力していきたいです。

三期生(大学院)

前田 光毅
修士課程1年



次世代の医学研究のリーダーへ

この活動は様々なバックグラウンドをもつ学生が主体となってディベートを行うことで様々なアプローチから新たな発見ができるのが魅力的だと思っています。医学分野だけでなく様々な分野のリーダー像を学ぶことができるのが特徴だと思います。今後は自分自身の専門性をより高め、理想とするリーダー像になれるよう研究に励んでいきたいと思っています。

三期生(大学院)

伊木 明美
修士課程1年



トランスレーショナルリサーチを見据えて

私は千葉大学芸学部で生命科学を学んだ後に医学薬学部修士課程へと進学しました。今までベーシックサイエンスの世界に身を置いてきたため、臨床研究の視点は持ち合わせていませんでした。しかし、CIPTプログラムで医学部生と共に講義を受け、ディスカッションをするうちに基礎研究と臨床研究の「橋渡し」の重要性を学ぶことができました。現在取り組んでいるテーマが将来臨床応用に活かされる日を目指して、日々の研究により一層精進する所存です。

三期生(大学院)

戸村 円
修士課程1年



CIPTと大学院研究

私は大学院で血清中のビタミンDを測定し、その値が子どものアレルギー関連疾患の発症とどのように関係するかを研究しています。小児病態の研究室の中では、免疫や子どものアレルギーに精通している方々に囲まれ、多くの知識を教授いただきながら日々精進しています。加えてCIPTの授業やディベートでは、医学部の様々な分野の先生方、大学院生、学部生と関わりことができ、自分とは違う方面からのアイデアをいただくことができます。それがとても刺激となり、自分の研究を見直す際にとても有用なものとなっています。

二期生(大学院)

中嶋 隆裕
修士課程2年



免疫・アレルギー疾患の根治を目指して

私は看護師として、様々な治療困難な疾患を抱える患者さんに関わってきました。特に免疫・アレルギー疾患を抱える患者さんは、日常生活の制約や内服する薬の量が多く大きなストレスを日常的に感じていることを学びました。そうした疾患の多くは原因やメカニズムが不明なことが多いため、治療は対症療法にならざるを得ません。そうした経験から免疫・アレルギーシステムの解明と疾患の根治を目指して日夜研究に励んでおります。

三期生(大学院)

マデナ ヤクフジヤン
博士課程1年



Being a contributor to the development of the medical world

Most of my teachers had an experience of having been studied in Japan, and they are making great contribution to the development of the medical science of my hometown. Which is one of the reasons I came to Japan for further education. To take part in the CIPT program, we get chance to learn the latest advanced therapeutics, and widen our horizons through the discussion. I hope and I will try to use what I have learned in this program to becoming a contributor to the development of the medical world.

三期生(大学院)

古賀 千絵
博士課程1年



世界に通用する研究者へ

私は社会疫学研究に従事しており、日本だけでなく世界の健康情勢に目を向けていける研究者になりたいと考えています。様々なバックグラウンドを持った者が集まる本プログラムは、自らの研究分野がいかに狭く、また大切なことを知る良い機会である。自分から発信できる人材になるためにも、本プログラムを大いに活用して道を切り拓いていこうと考えています。

二期生(大学院)

北村 浩一
博士課程2年



CIPTの抱負

CIPTではイノベーション力を養うために様々な実習、演習や講義があります。私の研究とは異なる分野の考え方や最先端の技術など学ぶことができ、とても充実していると感じています。今後は本プログラムを活用し、さらなるイノベーション力や英語力を身につけ、医療に貢献できる人材になれるよう日々精進していきたいと思っています。

千葉大学大学院医学研究院・医学部

「治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム」事務局

〒260-8670 千葉市中央区支鼻1-8-1

TEL: 043-226-2825 E-mail: igaku-mirai@chiba-u.jp

URL: <http://www.cipt-chiba-u.jp/>

お問い合わせ先

